



# 国労水戸

国労水戸地方本部  
水戸市中央1-1-11  
ENYビル2F  
029-221-4008  
発行責任者 塚原良雄  
編集責任者 坂本公則

## 今後の闘いで意思統一

### 職場総点検プロ会議を開催

3月24日、地方本部は第170回拡大地方委員会(37)を受けて、第3回職場点検プロジェクト会議を開催しました。会議には、工務・電気・運輸・運転から各協議会議長、茨城支部及び地方本部執行委員が出席し、3・14ダイヤ「改正」における団体交渉のあり方、常磐線不通区間に対する取り組み(放射線量等)、エルダー制度と出向先職場の労働条件改善などで意見交換を図りました。

今日、JR会社があらゆる職種で業務委託拡大がされ、組合員からは労働条件改善を求める声が多く出されています。また、出向戻りの問題、委託職場をJRへ戻す取り組み、技術継承の問題など、今後も会議を重ねながら地方本部としての方向性を意思統一しました。

組織強化・拡大、労働条件改善の闘いに奮闘しよう!

### 「新賃金」で12支社へ要請行動を展開

「2015年度4月1日以降の賃金改善についての申し入れ」(国労東日本第13号、2015年2月12日付)を巡っては、国労東日本指示第30号に基づき、昨日のJR東日本本社への緊急要請に続き、3月26日、各地方本部・地区本部による、「速やかな交渉促進」と「私たちの要求に対する回答」の上申を求め、支社への要請行動が展開されました。

### 常磐線4区間に分け復旧

太田昭宏国土交通大臣は3月7日、常磐線4区間に分け復旧、再開するとマスコミ発表しました。

JR常磐線のうち、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故の影響で不通となっている竜田駅～原ノ町駅間(現在はバス代行運転)について、放射線量や除染の進捗状況を踏まえて4つの区間に分け、順次運転再開を目指す考えを示しました。

太田昭宏国土交通大臣は不通区間について「区間ごとに放射線量や鉄道施設の被災状況、除染の進捗状況などが異なっている」と指摘しました。「帰還困難区域を含む浪江駅～富岡駅間など4区間に分け、復旧した区間から順次開通していきたい」と述べ、区間を4つに分けて復旧作業を進める方針を明らかにしました。政府とJR東日本は昨年11月、同区間の早期再開に向け復旧促進協議会を設置しています。

常磐線の不通区間のうち相馬駅～浜吉田駅間(22.6km)は、平成29年春の運行再開を目指すとしています。

### 16年連続「ベア・ゼロ」を回答

貨物会社は3月20日、国労闘争申11号に基づく回答として、16年連続となる「ベア・ゼロ」回答を行った。国労は15・000円円の賃金引上げ要求を掲げ、獲得に向けて多くの社員の賛同を得る中、署名活動を取り組み、現場長や支社等への申し入れ、各種行動を全力で展開し社員と家族の切実な要求を訴えてきたが、貨物会社はこの声に応えることはありませんでした。

貨物会社の運輸収入は、上半期は前年度を上回る収入を確保したが、下半期は10月に発生した土砂流入災害で東海道線が10日間にわたり寸断されたことが大きく影響し、計画を達成することができなかった。また、「動力費の上昇」、「線路使用料の増加」が経営に重大な影響を与え、「鉄道事業の営業損失は計画に達しない見込み」となっています。

「平成28年度の鉄道事業黒字化に向けた正念場の年と位置づけ、平成30年度における『経営の自立』に全社を挙げて取り組んでいかなければならない」とし「平成27年度の新賃金については、定期昇給のみ実施することを要する。」としました。

本部は「ベア・ゼロ」の回答に対し抗議行動を展開しました。(闘争指示第36号)①各級期間は貨物会社の「ベア・ゼロ」回答に対して、本社・支社等への抗議行動を展開すること。

②抗議行動を3月27日正午まで実施しました。

